

# 地区社協の役割は「幸せ装置」作り

長谷川先生、外岡先生をお迎えし、

「すまいるサポーター勉強会」を開催

平成 28 年 3 月 19 日 中央生涯学習センターで



長谷川幸介先生

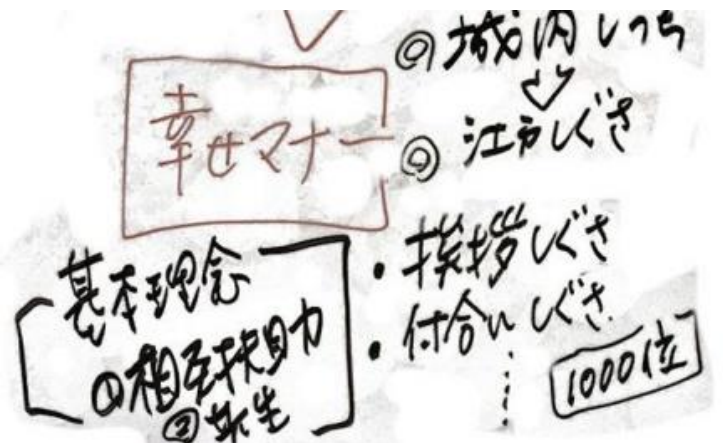


外岡仁先生

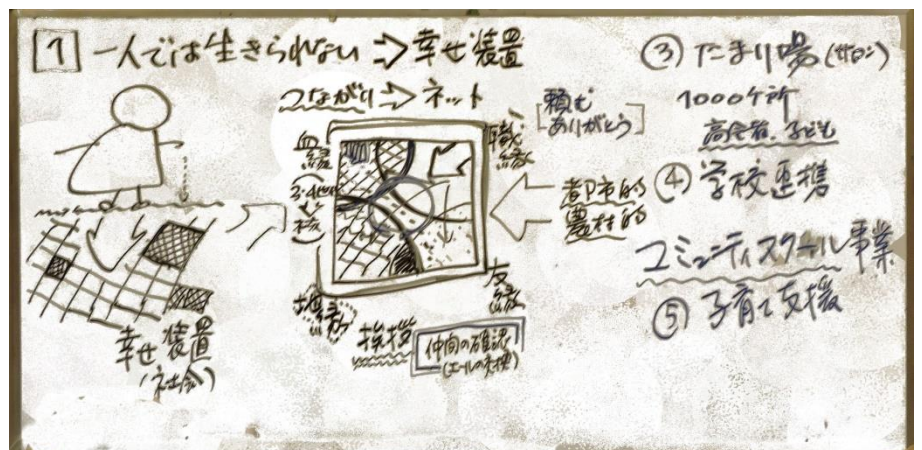
3月19日（土）、茨城大学准教授長谷川幸介先生、茨城大学協働のまちづくり研究会外岡仁先生をお招きして、すまいるサポーター勉強会を中央生涯学習センターで行いました。そば降る雨のなか、70名余が参加しました。



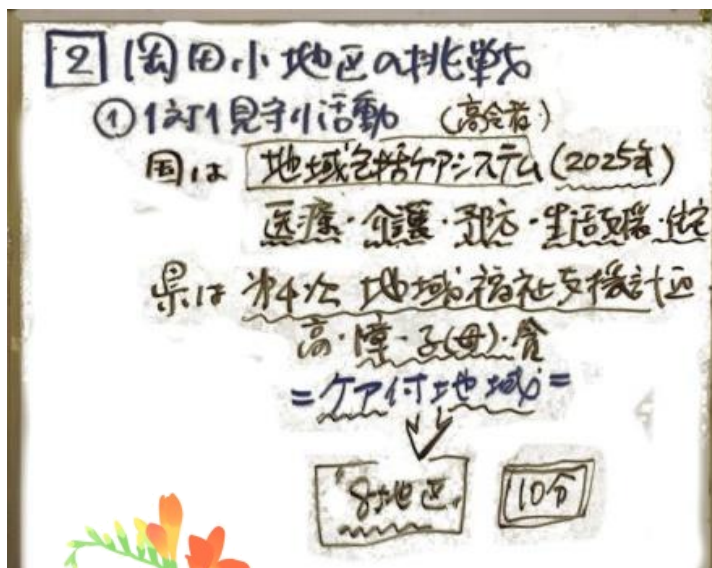
設立3年を経た岡田小地区社協の現状を踏まえ、地域福祉の基本は、相互扶助と共生であり、住民による地域福祉が必要であることを、血縁・地縁・友縁・職縁のつながりで人が幸せになる「幸せ装置」づくりになぞらえて語っていただきました。



少子化核家族化の中で高齢化社会を迎え、その幸せ装置にいろいろ異変が起きている。地区社協の使命はその幸せ装置を修復することだ。その際大切なのはお互いを生かし合う関係を作っていくこと。については、そろそろ「すまいるサポーター」ではなく「すまいるパートナー」と呼称を変えた方が良くはないか、との提案をいただきました。



活動が遅々として進まず、アドバランばかり上げているように見える活動計画については「挑戦」という言葉でエールを送っていただきました。しかし役員に対しては、「振り向いたら誰も付いて来なかった」といったことのないようにとの忠告もありました。



両先生独特の語り口で一生懸命笑わせようとする努力にもかかわらず、笑いが“盛り上がる”ところまで行かなかったことを先生方は残念がっていました。しかし私たちすまいるサポーターの中には「地区社協 3 年間の成熟がもたらした真剣度の表れ」という評価もあったほどで、改めて、地区社協の存在意義や原点を再確認することができたように思います。